

出前授業実施テーマリスト

大阪ユニセフ協会

2017.04現在

所要時間、内容につきましては、担当ボランティア講師と相談しプログラムを作成いたします。

A. ユニセフの活動・子どもの権利

No.	対象・時間等	内容
1	幼児・少人数	「ユニセフすごろく」、「ユニセフビンゴ」などのゲームや、エプロンのポケットからいろいろなものを出してお話する「エプロンシアター」などで、ユニセフの活動についてやさしく説明します。
2	小学校低学年以下・多人数	ユニセフの活動について、イラスト入りのパワーポイントを使って説明します。募金や支援活動については、パワーポイント「100円でできること」の写真や支援物資の実物を見せながら、簡単なクイズなど分かりやすく解説します。最後に「手洗いダンス」のDVD(約1分)を見て、踊りながら正しい手洗いの方法を学びます。
3	小学校高学年以上・多人数	ユニセフの活動を「予防」と「自立」の2面から説明します。世界の子どもたちの厳しい状況について、パワーポイントに編集した写真やデータなどを使ってQ&A形式で一緒に考えます。支援物資の実物を見せながら、募金の使われ方の説明をします。
4	小学校高学年以上約50人	子どもの権利について理解を深めるワークショップ。児童・生徒を数グループに分け、直近の新聞から切り抜いた記事と「子どもの権利条約カード一覧」を配り、その記事の内容がどの権利と関係があるかをグループで話し合い、各グループから話し合った内容について発表します。
5	中学生以上・多人数	「子どもの権利条約」の概要や理念についてPPTを使って説明し、世界の子どもたちの厳しい状況を示す写真を見ながら、その状況はユニセフが分類している「4つの権利」のどの項目に反しているか、また、その子どもたちが権利を回復できるようにするにはどのような支援が必要かを、一緒に考えます。少人数の場合「子どもの権利条約カード」を使ったワークショップもできます。

B. 国際理解・教育

No.	対象・時間・人数等	内容
1	小学校低学年・多人数可	アニメ「ミナにわとりなんわ」又はアニメ「サラ すてきなおくりもの」を視聴し、勉強の機会を得ることの大切さをわかりやすく話します。
2	小学校高学年・40人	ワークショップ「どこが違ってどこがいっしょ」…児童を数グループに分けます。DVD「シュヌン・シュヌン」を5テーマに分けて視聴しますが、1つのテーマごとにDVDを止めて、その子どもたちの置かれた状況を自分たちの生活環境と比較して、どこが違ってどこが一緒かをワークシートに書き留めます。各グループは5テーマから1つ選び、各自が感じたことを出し合い、話し合った結果を各グループから発表します。
3	小学校高学年以上・多人数可	ワークショップ「フォトランゲージ」…児童・生徒を数グループに分け、世界の出来事や子どもたちの厳しい状況を写した写真(10枚以上準備)から各グループ毎1枚の写真を選び、その写真を見て多くの事を読み取ります。各グループで話し合って意見をまとめることを通じて、世界で苦しんでいる子どもの現状について理解を深めます。時間が許せば、その写真の子どもに贈りたいメッセージをグループ毎に考え、発表します。
4	小学校高学年以上・多人数可	ワークショップ「100人の村から」…世界を100人(児童・生徒数で適応可)の村に見立て、それぞれに配られた役割カードに従って移動するゲームで、世界の人口、識字の大切さ、栄養、および富の分配の不均衡について学びます。パワーポイントに編集した写真やデータを使って解説を交えながら、貧困から派生する各種の不平等に苦しむ子どもたちの状況を考えます。

C.保健・衛生

No.	対象・時間等	内容
1	小学校低学年以下 約50名	ミニ・ワークショップ「経口補水塩水作り」。導入でペットボトルに入れた泥水を見せ、こんな水しかない場合この水を飲むか飲まないかを質問します。自分たちの生活からかけ離れたことなので戸惑う児童も多いと思われそうですが、開発途上国には汚れた水しか飲めず下痢で死亡する子どもが多いことを説明し、脱水症状を緩和する経口補水塩水(ORS)と同じような効果がある飲料の調合実演をし、全員で試飲をします。
2	小学校高学年以上 約50名	ワークショップ「ユニセフ子ども物語」輪読。4～5名のグループに別れ、水に関するショート・ストーリー「雨水タンクがやってきた」、又は「ムサの話」を輪読します。自分が読んだ部分について感じたことを述べ、その問題点や対策についてグループ内で話し合います。最後に各グループから話し合ったことを発表します。
3	小学校高学年以上 多人数	ミニ・ワークショップ「水運び」。開発途上国にはきれいな水を飲むことができない人が多いです。遠くの川から重い水瓶で水を運ぶのは女の子の仕事で、そのために学校に通えない子どもが大勢いる事をパワーポイントを使って説明します。後半はユニセフが支援しているポリバッグで実際に水運びをして、現地の子どもの苦勞を体感します。ユニセフの支援物資や、ネパールの水瓶の実物も展示します。
4	全般 多人数	開発途上国では5歳未満で死亡する子どもが多いことを色分けした世界地図で示し、その主な原因について解説します。この子どもたちを救うために重要なことは「予防」で、衛生、栄養の他、親の教育、貧困対策など幅広い分野にわたること、そして支援活動の結果状況が改善されていることをパワーポイントを使って説明します。
5	中学生以上 少人数	HIV/エイズについての正しい知識と予防の大切さを伝え、HIV/エイズと闘うことのためにユニセフが取り組む4つの事業(予防、治療、保護など)をPPTを使って紹介します。エイズで親を失ったジョン君の話をロールプレーで読み、その後感じたことを話し合います。

D.厳しい状況

No.	対象・時間等	内容
1	小学校高学年以上 多人数	ミニ・ワークショップ「児童労働」。クイズ形式で世界の児童労働の実態を学び、児童労働は何故生じるのか、どうすれば無くすことができるのかなど、その問題点と解決策について話し合います。
2	小学校高学年以上 約50人	ワークショップ「ストリート・チルドレン」。最初にストリート・チルドレンが発生する原因について学び、彼らを保護するための施設について、グループに分かれて話し合います。建設場所、部屋の配置、入所方法、運営主体、運営方法等項目ごとに条件の書かれたカードを引き、その条件の組み合わせで建設される施設のメリット・デメリットについて考えることを通して、この問題解決の困難さを実感します。
3	中学生以上 20～50人	ミニ・ワークショップ朗読劇「ストリート・チルドレン」。配役を決め朗読劇をグループの数に合わせて分割して順に演じます。その問題点についてグループで話し合うことにより、ストリート・チルドレンについて疑似体験的に理解し、問題解決の糸口を探ります。
4	中学生以上 20人	「平和学習」。麻薬で恐怖心を取り除いて戦場に送られる子ども兵士の実態とそのリハビリの状況を知ることにより、戦争の恐ろしさ、平和の尊さを学びます。紛争地図で世界中でいかに戦争・紛争が多いかを説明し、アフリカ、中東、アジアの地域の国を例にとり、戦争・紛争の要因について解説します。地雷のレプリカの展示と説明も行います。
5	小学生以上 多人数	ワークショップ「緊急持ち出しゲーム」。グループに分かれて、災害に見舞われたり、紛争に巻き込まれたとき何を持ち出すか、品物を書いたカードの中から決められた個数を選んでバッグに入れます。数グループが発表した後、さらに持ち出し品数を減らさなければならない状況を想定し、どれを捨てるかを考えます。生き延びるために何が必要か、難民たちの厳しい状況をゲーム形式で体感します。